

(2) 受贈図書

各官公庁、公共団体、大学、会社・事業所および個人など、あらゆる方面から寄贈される資料は非常に多く、本年度は図書1,352冊、新聞33種、雑誌129種のほかパンフレット類多数が寄贈された。本年度目についた大口の寄贈は福島県印刷工業組合より寄贈された印刷関係図書20冊（金額にして18,000円相当）と福島県労政課より寄贈された社会科学関係図書127冊などがあり、資料の乏しかったこの分野にとって貴重なものとなった。

(3) レコード

本年度はブリトッソ作曲「戦争レクイエム」など14点（34枚）のLPレコードを購入し、本館のレコードはステレオLP137枚、モノラルLP40枚の合計177枚となった。

(4) 新聞・雑誌

昭和40年3月末日現在当館で継続購入している新聞・雑誌は、新聞20種（内縮刷版5種）雑誌98種で、本年度は「室内」「小説中央公論」の2種のかわりに新規に「展望」1種を加えた。なお「Life」「Time」は購入をとりやめて寄贈を受けることになった。

2 資料の整理

(1) 図書整理

本年度中に整理を完了した資料の量は、購入、受贈、編入を問わず年度内に館内用資料として受け入れられた資料4,332冊と旧分類から新分類（NDC新訂6版による分類）への切り替えを行なった図書2,500冊との合計6,832冊であるが、蔵書目録外国文学篇の原稿作成および佐藤文庫目録の編集等多忙な1年であった。

(2) 整本

当館における整本の仕事は大きく2つの作業に分けることができる。その1は新聞・雑誌などの合本製本であり、もう1つは利用のはげしい巡回文庫等の図書・館内閲覧用の一般図書の修理などである。本年度2名の技能員によって処理された整本冊数は一般図書1,312冊、新聞合本181冊、雑誌合本1,042冊その他987件にのぼっている。

3 資料の紹介

積極的に外部へ向って図書館活動をおこなおうとする現代の公共図書館にとって、その所蔵するところの資料を公開することは非常に重要な意味をもっているとの見解に立って、本年度は蔵書目録外国文学篇の原稿作成、佐藤文庫目録発行、新着図書紹介等の仕事を行ってきた。以下その概略を示す。

(1) 蔵書目録（外国文学篇）

県立図書館の所蔵するすべての資料を広く公開する手段として、また全国的規模での図書館活動にいささかでも協力したいとの意図で計画を遂行してきた蔵書目録も本年度はその第9集として外国文学篇の刊行を目指して原稿作成を行ってきたが、予算の都合上いかながら来年度に持ち越すことになった。現在までに刊行した蔵書目録は、次の通りである。

第1集	郷土資料蔵書目録	30年3月
第2集	蔵書目録 総記・哲学篇	31年3月
第3集	〃 歴史篇	33年3月
第4集	〃 社会科学篇	35年3月
第5集	〃 自然科学・工学篇	36年3月
第6集	〃 産業篇	37年2月
第7集	〃 芸術篇	38年3月
第8集	〃 語学篇・文学篇1	39年3月

(2) 佐藤文庫目録

去る昭和36年秋、郡山市の佐藤伝吉氏より寄託された佐藤文庫の整理も4年目をむかえ、最後の段階に入った。38年度で大部分の整理を終り、本年度は冊子目録の完成を目標に作業を進めてきた。まず、分類と目録の調整を行ない、7月に印刷原稿の完了を目安に作業を進めたが、調整上の問題がいろいろ生じたので、7月完了が難しくなった。9月に入って、和漢書誌学の泰斗である法政大学教授長沢規矩也氏が来館し、1週間にわたり佐藤文庫中の和装本をくまなく調査し、目録の誤りや不備な点について指導を受けた。10月に入ってようやく原稿が完成したので、下旬印刷の過程に入った。ぼう大な資料を実質2か年の短日月で整理したので、請求記号や目録上の誤りや不統一があったため校正に難航したが、3月ようやく印刷を完了した。装備の作業で40年度に繰り越したものもあるが、この目録の完成で、全国的に注目されている佐藤文庫の全容を紹介することができ、公開の日も近くなった。この文庫の総冊数はまだつかめないが、総タイトル数は7,941で、その内訳は表4のとおりである。

(3) 新着図書紹介

日々受け入れられる新着書の中から、50点前後ずつを選んで館報「あづま」誌上をかりて紹介してきた。特にこの場合、普通あまり目にふれられない貴重本、珍しい本、県立図書館でなければ購入できないような本を意識して紹介することに努めた。

表1 昭和39年度年間増加冊数（分類別）

	購入	寄贈	編入	計
（館内奉仕用）				
総記	135	154	318	607